

■ 自己点検評価 指摘事項の改善状況等 (平成22～27年度)

課題として指摘された事項	評価結果について検討し反映した具体的内容
<p><b>平成27年度</b></p> <p>① 教育・研究課題及びその成果の検証を行う等、愛知県内のみならず、全国のさらに多くの教育関係者に研究成果の公表を拡大していくための検討が求められる。</p> <p>② 教員養成大学に付置された附属学校としての役割を果たすために、大学教員が附属学校で一定期間授業を担当するシステムを構築する等、教育・研究における大学と附属学校のより一層の緊密な連携が求められる。</p> <p>③ さらに申請件数を伸ばすと同時に、研究内容のより一層の充実により、採択件数及び受託事業を増加させる必要がある。</p>	<p><b>平成27年度報告【改善状況】</b></p> <p>① 教育研究協議会の広報の充実に取り組んだ結果、教育研究協議会への県外からの参加者が、37名から55名に増加した。また、日本／ユネスコパートナー事業によるユネスコスクール指導者交流会（H27.12）において、附属名古屋小学校及び附属岡崎中学校教諭がユネスコスクール活動の実践発表を、eスクールステップアップ・キャンプ2015（H27.12）において、附属名古屋中学校教諭がICTを活用した授業実践報告を、教育課程研究校事業による研究協議会（H28.2）において、附属名古屋中学校教諭が成果発表を行った。</p> <p>② 大学教員は、昨年度と同様に教育研究発表会に向けて、あるいは、日常的に、教科レベルで附属学校教員の授業研究への指導助言を行ってきている。</p> <p>③ 平成27年度は、外部講師を招いて、科学研究費助成事業における奨励研究への申請サポートを実施した。申請件数は、昨年度とほぼ同数の56件であった。また、国が公募するプロジェクト等への応募を推奨、支援した。その結果、昨年度は「キャリア教育・就労支援等の充実（採択）」と「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業（採択）」の2件の応募であったが、平成27年度は、研究開発学校に2件応募するとともに、「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業（採択）」、「ICTドリムスクール実践モデル」、「教育課程研究指定校事業（採択）」、「中高生の科学研究実践活動推進プログラム（採択）」の4件のプロジェクト研究に応募した。</p> <p><b>平成28年度報告【改善状況及び改善結果】</b></p> <p>① 教育研究協議会等の開催にあたって、広報を充実させた結果、県外から52名の参加があり、昨年度と同程度の参加者数を維持した。また、日本／ユネスコパートナー事業によるユネスコスクール指導者交流会（H28.12）において、附属名古屋中学校及び附属高等学校教諭がユネスコスクール活動の実践発表を行った。さらに、教育課程研究校事業による研究協議会（H29.2）において、附属名古屋中学校教諭が成果発表を行った。このことにより、愛知県内のみならず、全国のさらに多くの教育関係者に研究成果の公表を拡大させることができた。</p> <p>② 大学教員は、平成28年度も継続して、教育研究協議会等に向けて、あるいは、日常的に、教科レベルで附属学校教員の授業研究への指導助言を行った。また、附属学校を活用した新採用大学教員のFD研修の内容について検討した。加えて、大学と附属学校が連携・協力して、いじめ防止のためのいじめ・不登校プロジェクトに取り組んだ。このことにより、教育研究における大学と附属学校のより一層の緊密な連携が図られた。</p> <p>③ 平成28年度は、本学教授を招いて科学研究費助成事業における奨励研究への申請をサポートした。その結果、申請件数は56件となり、昨年度と同数を維持することができた。また、国が公募するプロジェクト等への応募を推奨、支援</p>

した。その結果、平成 28 年度は、研究開発学校に 3 件応募するとともに、新たに「教育課程研究指定校事業」のプロジェクト研究に 1 件応募することにつながった。